

# 2019年10月期 第2四半期決算説明会

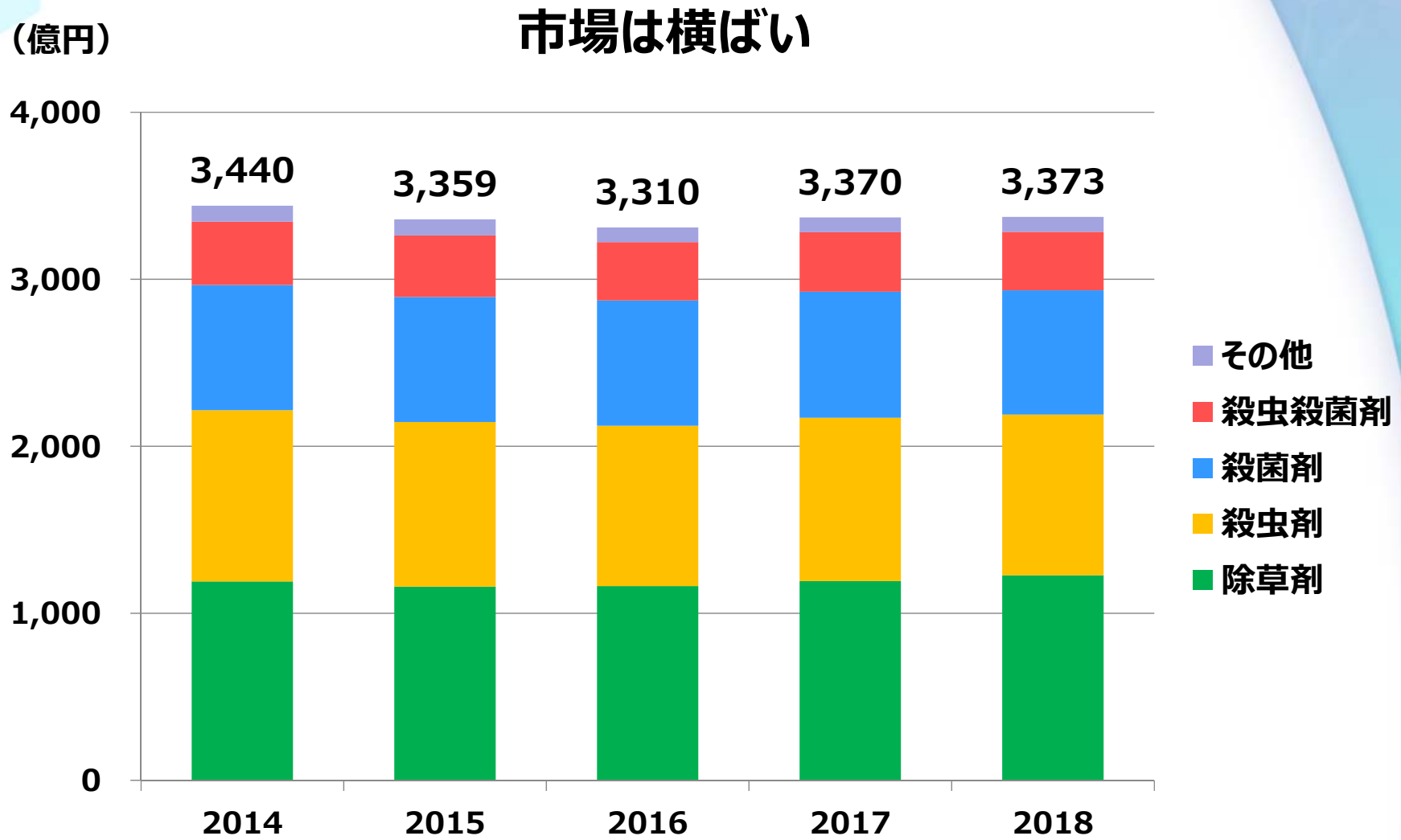
2019年7月4日

 **クミアイ化学工業株式会社**

## 本日のアジェンダ

- I. 市場環境**
- II. 2019年10月期第2四半期 実績**
- III. 2019年10月期 業績予想**
- IV. 中期経営計画達成に向けて**
- V. 質疑応答**

# 国内農薬市場の動向



出典：農薬工業会国内農薬出荷金額

# 国内農業情勢

## 農業資材の集約化（農薬）

### 閣議決定

- 農業競争力強化プログラム（2016年11月29日）
- 1. 生産資材費の引き下げ、2. 全農改革

### 法改正

- 農薬取締法の一部改正（2018年12月1日施行）
- 再評価制度の導入

### 全農

- 農林水産業・地域の活力創造プランに係る全農自己改革
- 1. ジェネリック農薬、2. 品目集約、3. 担い手直送規格

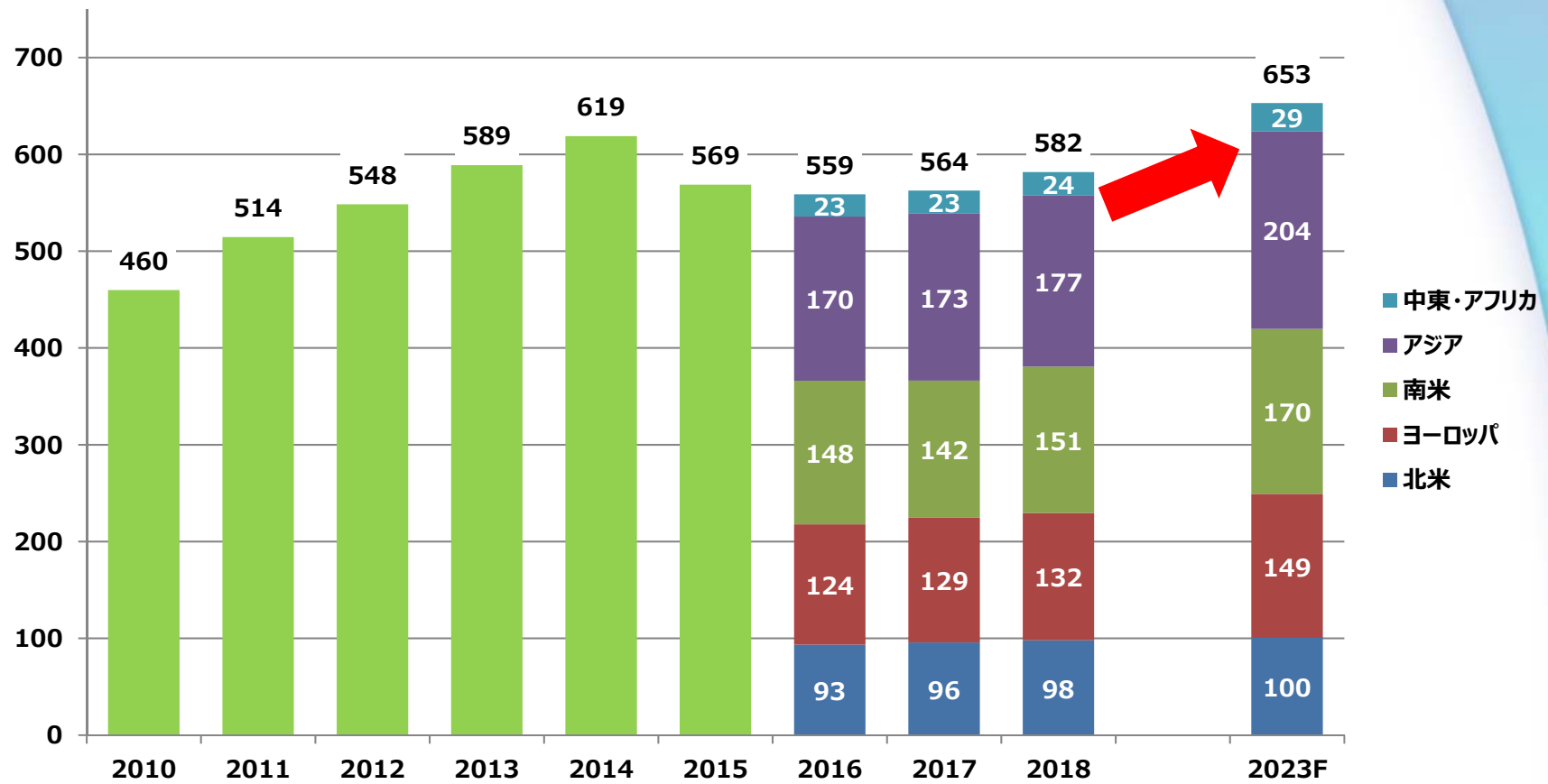
### 当社の取組み

- 農薬は高品質な農産物を安定的に作るために必要不可欠な資材
- 独自技術を用いた生産性向上や省力化への取組み
- 情勢に合わせた取組み（マーケティング部 担い手推進企画課を新設）

# 世界の農薬市場の動向



(億ドル)



出典 : Agbioinvestor

I. 市場環境

**II. 2019年10月期第2四半期 実績**

III. 2019年10月期 業績予想

IV. 中期経営計画達成に向けて

V. 質疑応答

# 2019年10月期 第2四半期実績

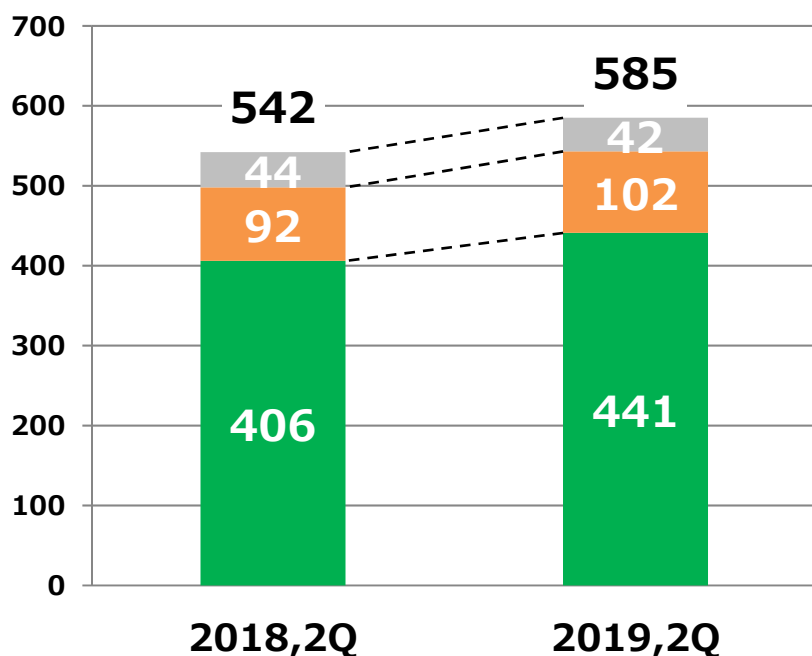
(億円)	2018 2Q	2019 2Q予想	2019 2Q実績	前年比 (増減率)	予想比
売上高	542	597	585	+43 (+8%)	-12
営業利益	48	50	56	+8 (+17%)	+6
経常利益	56	56	65	+9 (+16%)	+9
当期 純利益*1	45	38	47	+2 (+5%)	+8

\*1親会社株主に帰属する当期純利益  
 中間配当として3円を実施

# セグメント別売上高及び営業利益

## 連結売上高

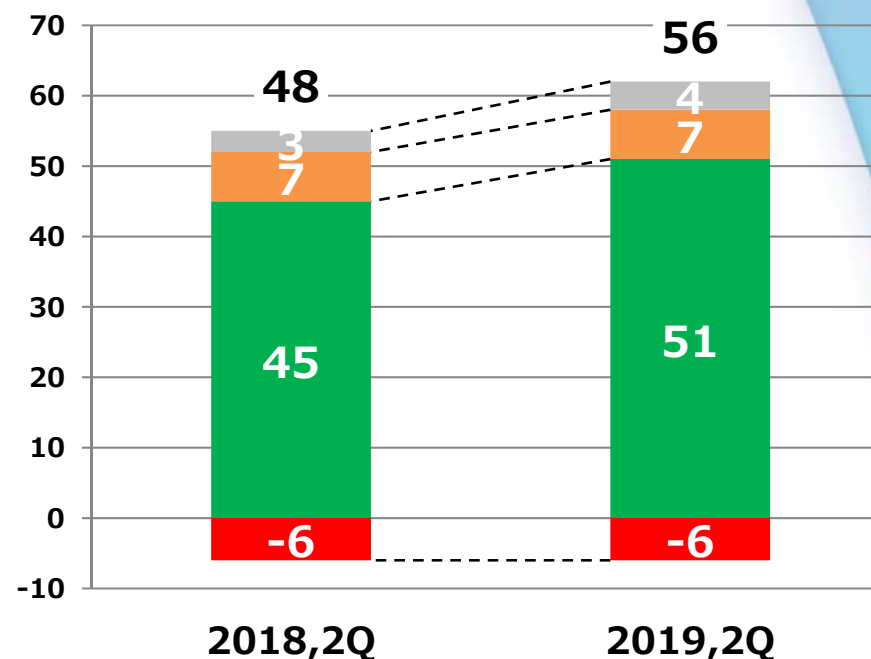
(億円) ■ 農薬及び農業関連 ■ 化成品 ■ その他



農薬及び農業関連 +35億円 (9%UP)  
 化成品 +10億円 (11%UP)  
 その他 -2億円 (4%down)

## 連結営業利益

(億円) ■ 農薬及び農業関連 ■ 化成品 ■ その他 ■ 調整額



農薬及び農業関連 +6億円 (15%UP)  
 化成品 +0億円 (1%UP)  
 その他 +1億円 (46%UP)

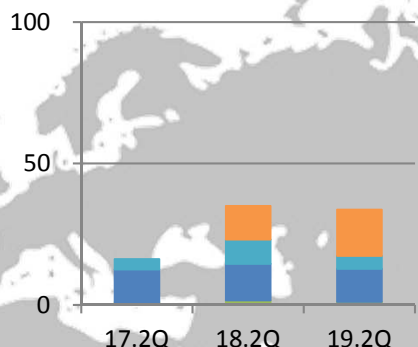
✓ 北米向けアクシーブの出荷が好調に推移、国内事業は前年同期を上回る  
 ✓ 塩素化事業、精密化学品事業、ウレタン硬化剤事業が好調に推移



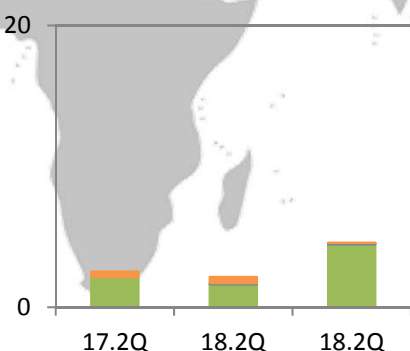
# 海外地域別・種類別売上高 (農薬及び農業関連)

[億円]

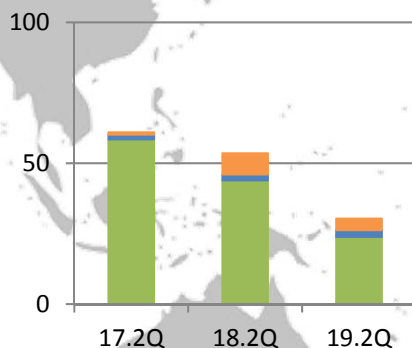
欧州



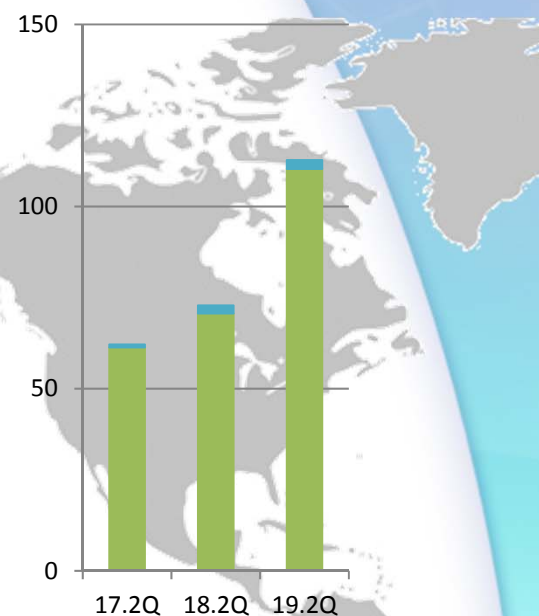
中近東・アフリカ



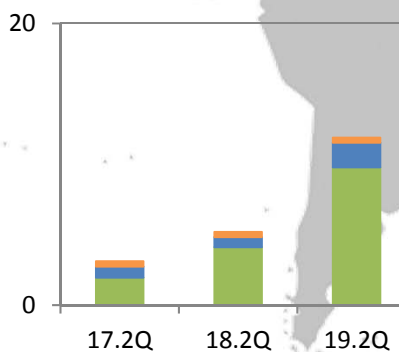
アジア・オセアニア (国内除く)



北米



南米



■ 除草剤 ■ 殺菌剤 ■ 植物成長調整剤 ■ その他

I. 市場環境

II. 2019年10月期第2四半期 実績

**III. 2019年10月期 業績予想**

IV. 中期経営計画達成に向けて

V. 質疑応答

# 2019年10月期 連結業績予想

(億円)	2018 実績	2019 予想	増減額	増減率
売上高	968	1,070	+102	11%
営業利益	56	61	+5	9%
経常利益	81	81	0	0%
当期純利益*	47	56	+9	19%

\*親会社株主に帰属する当期純利益

# 2019年10月期 連結業績予想

## 売上高 1070億円 (+102億円)

- 農薬及び農業関連 (+62億円)  
アクシーブ剤の売上増加、PIクミアイプライベートリミテッド製造販売開始  
エフィーダ剤および新規箱処理剤販売開始
- 化成品事業 (+36億円)  
イハラニッケイケミカルタイランドを新規連結、既存事業の売上増加

## 営業利益 61億円 (+5億円)

- 売上総利益の増加 (+18億円)
- 販売費及び一般管理費の増加 (-13億円)  
試験研究費、新規子会社費用の増加

## 経常利益 81億円 (+0億円)

- 持分法投資利益、受取配当金の減少、支払利息増加 (-5億円)

## 当期純利益 56億円 (+9億円)

- 2018年度に計上した特別損益に係る損益要因の消滅

# 2019年度下半期の事業活動

## 農薬及び農業関連事業

### 1. アクシーブ

- 新規混合剤開発、上市登録国拡大に向けた取り組み
- 新規登録国での販売の垂直立ち上げ、拡販

### 2. ノミニー

- PIクミアイプライベートリミテッドでの製造・販売の立ち上げ

### 3. エフィーダ

- 2020年度の新混合剤販売に向けた取り組み
- 「エフィーダ」ブランド剤の拡充に向けた混合剤の開発

# 2019年度下半期の事業活動

## 化成品事業

### 1. 塩素化事業

- イハラニッケイケミカルタイランドのフル生産へ向けた取り組み

### 2. 精密化学品事業

- 高機能性樹脂原料（ビスマレイミド類）の売上拡大、品目拡充
- 防水剤用ウレタン硬化剤における既存製品の拡販、新製品の開発

### 3. 受託事業

- 新規受託テーマ獲得に向けた取り組み
- 既存テーマの更なる深耕

I. 市場環境

II. 2019年10月期第2四半期 実績

III. 2019年10月期 業績予想

**IV. 中期経営計画達成に向けて**

V. 質疑応答

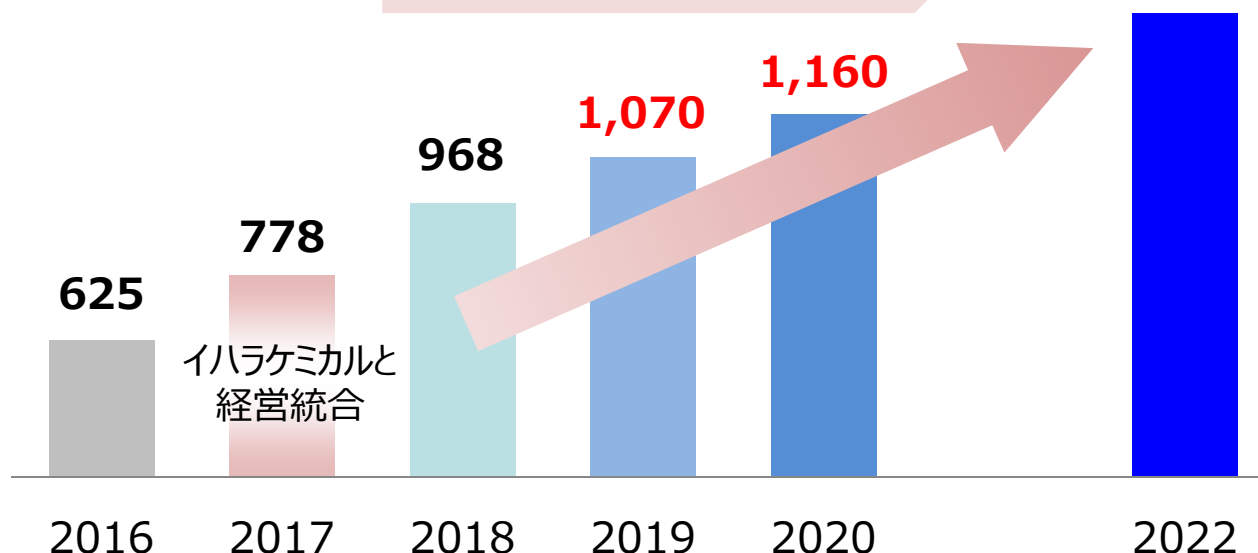
# 中期経営計画売上高推移

スローガン **Speed Cost Innovation**

2018 中期経営計画 *- Create the Future 未来を拓く -*

- ・ アクシーブ販売地域拡大
- ・ エフィーダの拡販
- ・ 化成品事業の成長基盤構築
- ・ M&A 事業提携

**長期ビジョン  
売上 1,400億円**



イハラケミカルと  
経営統合



# 成長戦略



1. アクシープ
2. ノミニー
3. エフィーダ
4. 国内農薬事業での取り組み
5. スマート農業への取り組み
6. 自社開発新規剤の推進
7. 化成品事業での取り組み

# 1. アクシーブについて

## アクシーブ剤の開発見通し

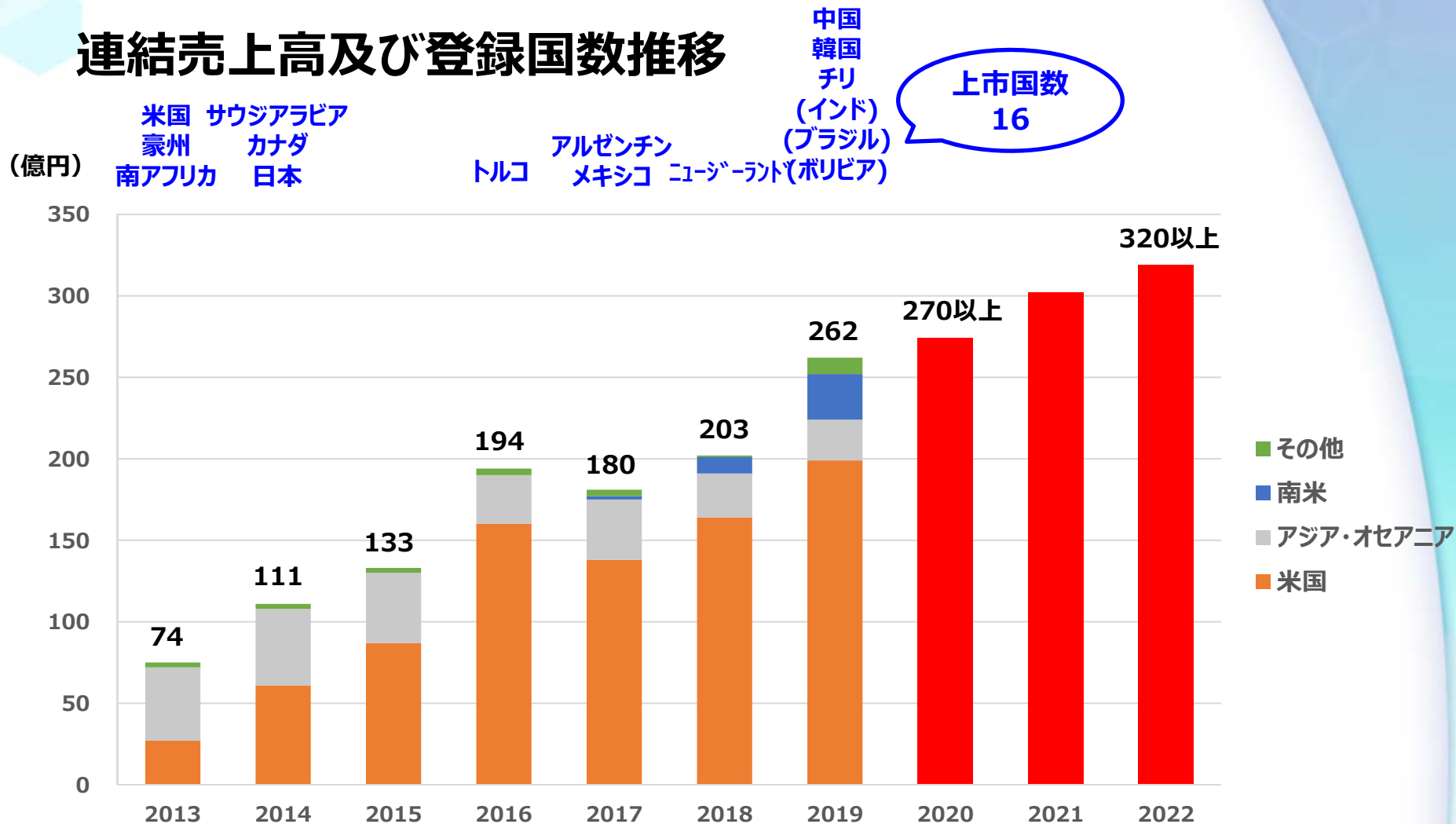
登録国 (製品数)	2019	2020	2021	2022
米国 (9剤)		新規混合剤	新規混合剤	 継続的な新製品開発
アルゼンチン (3剤)	新規混合剤		新規混合剤	
インド	登録取得			
ブラジル	登録取得			
その他登録国	ボリビア	 継続して開発国を拡大		

- ✓ 米国、アルゼンチンでの継続的な新規混合剤投入によるさらなる拡販
- ✓ インドは間もなく、ブラジルは2019年中に登録取得予定
- ✓ インド・ブラジルでの需要取り込みによる拡販



# 1. アクシープについて

## 連結売上高及び登録国数推移



✓ 米国・アルゼンチンでのさらなる販売増加

✓ アルゼンチン・インド・ブラジルで2020年50億円、2022年100億円の売上を見込む

# 1. アクシープについて

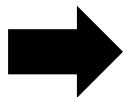
## アクシープの事業環境について

### 米中貿易摩擦の影響

- ✓現時点で販売への大きな影響ない
- ✓大豆需要については世界的な需要-供給サイクルの中で吸収されると予想

### 米国中西部地域における天候不順の影響

- ✓大豆、トウモロコシの作付け減少により農家の減収が予想される
- ✓今期の在庫状況によっては来期の購入数量に影響
- ✓今期計画への影響は限定的



- ✓今期の見通しに大きな影響はない
- ✓米国においては来期に影響が出る可能性あり（現在精査中）
- ✓オーストラリア、アルゼンチンについては来期も順調に推移する見込み
- ✓影響は限定的であり、中長期的には全世界的に売上増加を見込む

## 2. ノミニーについて

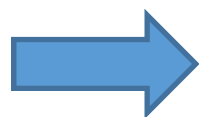
### PIクミアイプライベートリミテッド進捗状況



工場外観

倉庫内観

- ✓ 現地での製造を開始
- ✓ 登録取得次第販売開始を予定



関税・物流コスト削減で価格競争力を強化  
潜在市場の開拓（農薬未使用地の開拓）

## 3. エフィーダについて

### エフィーダ剤のラインナップ拡大

#### 2019年度より3製品の販売開始

剤名	特徴
ベルーガ	直播対応、自社開発2成分混合剤
エンペラー	水稻安全性・汎用性が高い剤
アバンティ	高性能、ワイドスペックかつ水稻安全性が高い剤



✓ 3製品が順調に推移、来期以降のさらなる拡販を見込む

#### 新たに混合剤3製品の登録を取得、2020年度販売開始

剤名	特徴
ベツカク	ワイドスペック自社開発3成分混合剤
プライオリティ	特裁対応、2成分高性能剤
ツイゲキ	湛水散布できる高性能中期剤

✓ 2020年以降も、マーケティングに基づき、地域・場面に合わせた新製品を開発

## 4. 農薬事業での取り組み

### 担い手直送大型規格への対応

生産資材コスト引き下げ、担い手農家増加に対応すべく、様々な施策を実施し需要を確実に取り込む

- ✓マーケティング部 担い手推進企画課を設置（2018年7月）
- ✓水稲用除草剤、水稲箱処理剤で12品目をラインナップ
- ✓2019年の受注面積27,328ha（前年比47%増）
- ✓エフィーダ剤やピラキサルト剤などの新剤を追加し、品目拡充、売上増加を図る



40キロ梱包（20キロ×2）  
（担い手直送大型規格）



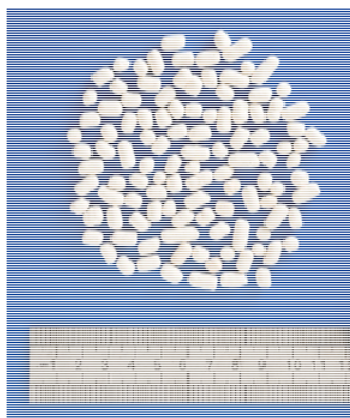
1キロ梱包  
（従来品）

# 5. スマート農業への取り組み

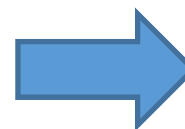
## 自社独自製剤「豆つぶ剤」の活用

### 豆つぶ剤の特長

- ✓ 軽量、拡散性に優れる
- ✓ ドリフト（飛散）が少ない（作業中・圃場外への暴露が少ない）  
→ ドローンなどを用いた省力散布と高相性

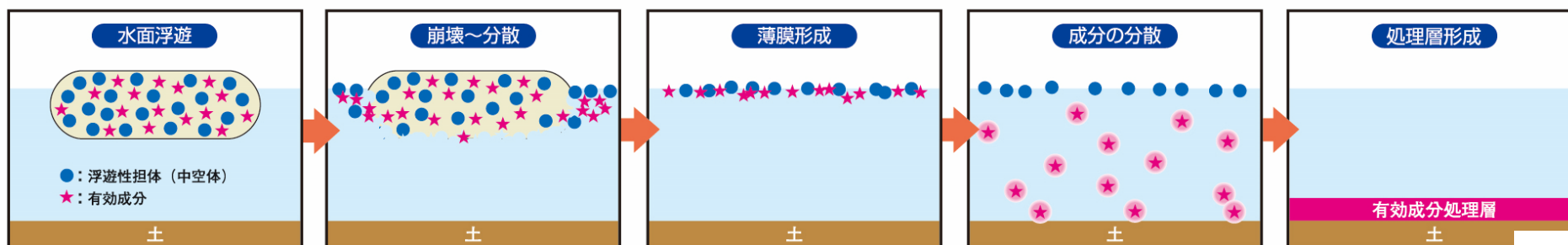


崩壊しながら自己拡散



田面全体へ拡散

### 豆つぶ剤の崩壊分散状態（模式図）





## 5. スマート農業への取り組み

### 精密農業及び農作業省力化への取り組み

#### 農業用ドローン

ナイルワークス社  
自動操縦自動散布による省力化、生育診断による栽培管理等を通じた精密農業  
エンルート社、DJI社  
ドローンと豆つぶ剤散布機の組み合わせによる農作業省力化

#### スーパーボート

剤散布装置を搭載したボートと豆つぶ剤の組み合わせによる省力化  
ドローンに比べ安価で導入しやすい

**その他にも様々な企業との協働を行っており、新しい価値の提案を行ってまいります！**

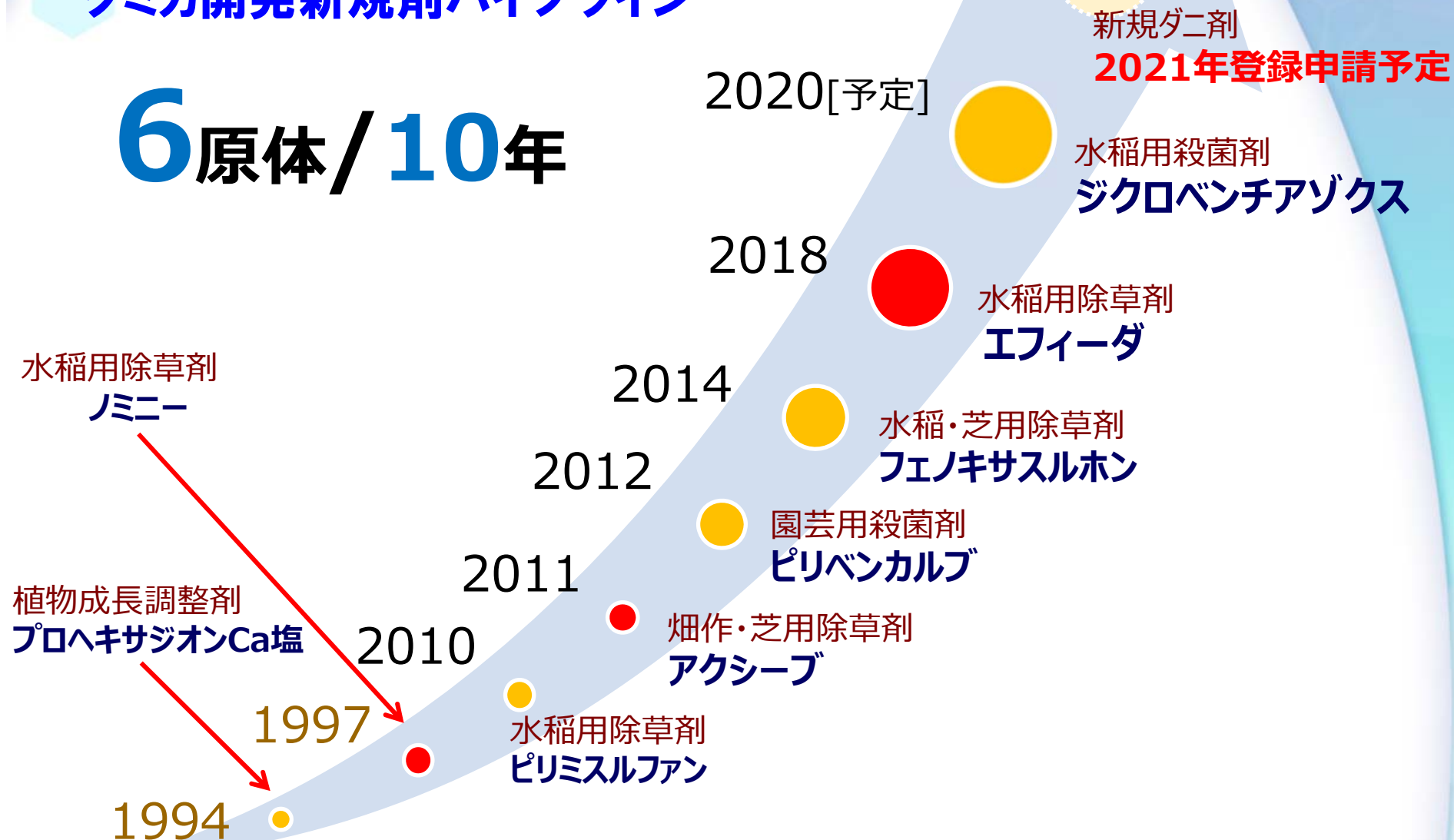




# 6. 自社開発新規剤の推進

## クミカ開発新規剤パイプライン

# 6原体 / 10年



各原体の年は初登録年を示す

# 7. 化成品事業での取り組み

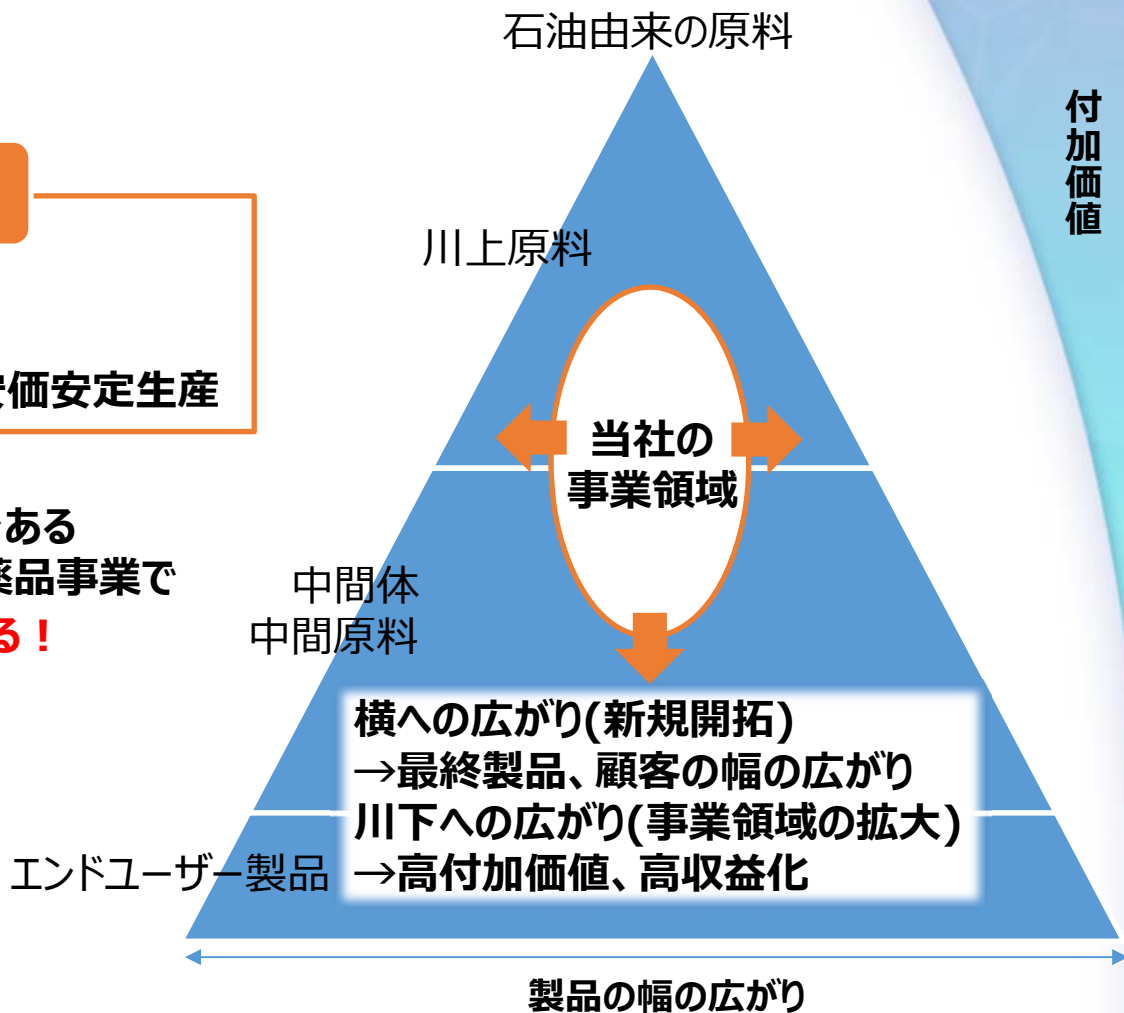
## 化成品事業が目指すところ

### 当社の強み

- ✓ 農薬事業で培った有機合成技術
- ✓ 国内唯一の塩素化技術
- ✓ グローバルな調達拠点網による安価安定生産

強みを最大限に活用し、主力分野である塩素化、精密化学品、受託、産業薬品事業で  
**新しい価値を生み出すことで成長する！**

- ✓ 既存事業の新規開拓
- ✓ 事業領域の拡大



**✓ 幅広い川下製品へ向けた展開を加速！**

# 7. 化成品事業での取り組み

## 化成品事業の広がり

### イハラニッケイ化学工業

- 塩素化技術を核としたクロロキシレン事業への傾注
- ✓イハラニッケイケミカルタイランドの稼働は順調
- ✓第2期拡張工事による生産品目追加
- ✓早期の連結売上高100億円を目指す

### ケイ・アイ化成

- 有機合成技術を駆使した精密化学品事業の最大化
- ✓電子材料向けビスマレイミド類の積極展開
- ✓マルチプラントによる幅広い受託合成ニーズの対応強化
- 産業薬品事業のより川下域への展開加速

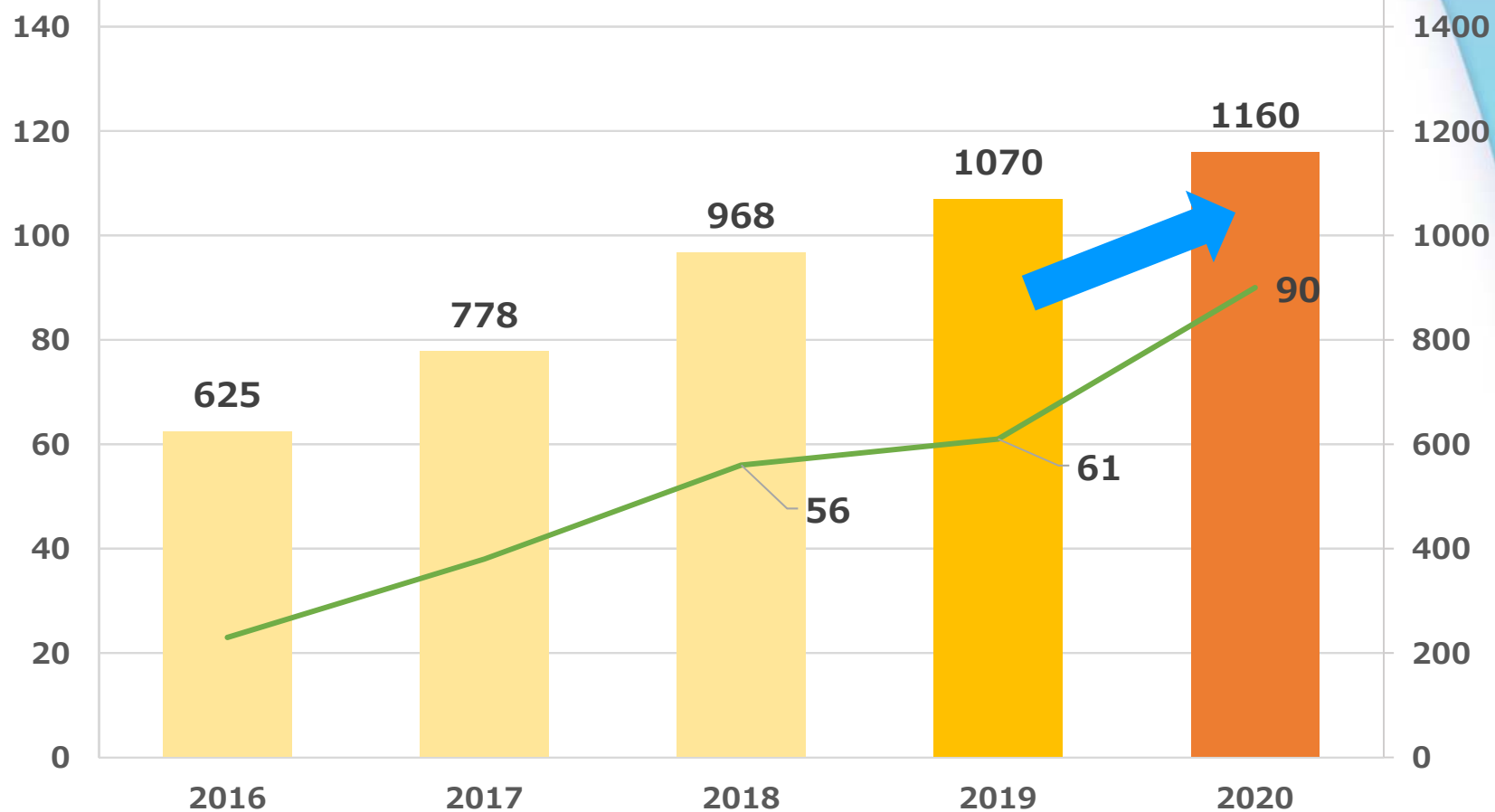


# 中期経営計画～長期ビジョンに向けて

## 中期経営計画達成に向けた計画

営業利益(億円)  
(折れ線)

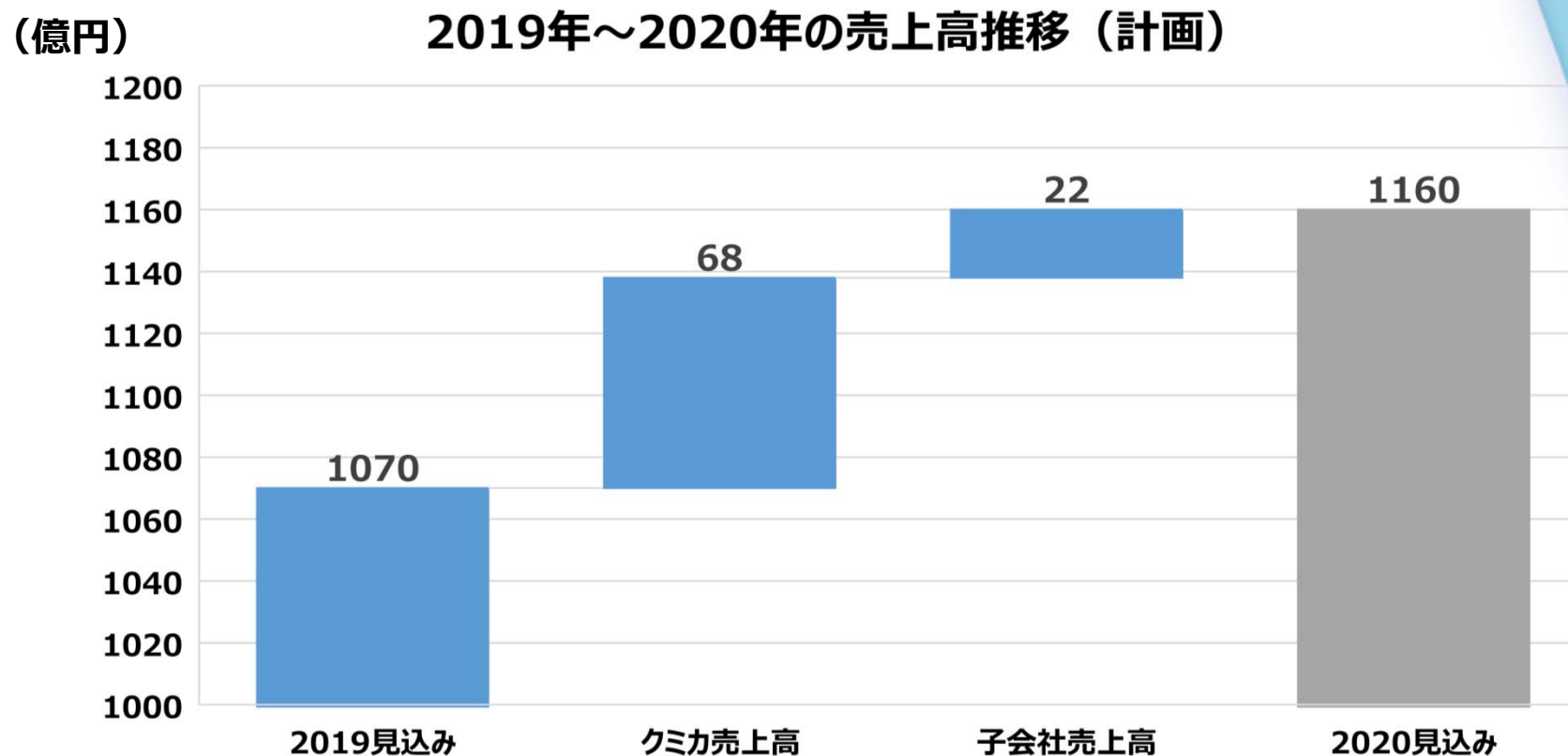
売上高(億円)



# 中期経営計画～長期ビジョンに向けて

## 中期経営計画達成に向けた計画

売上高 1,070億円→1,160億円



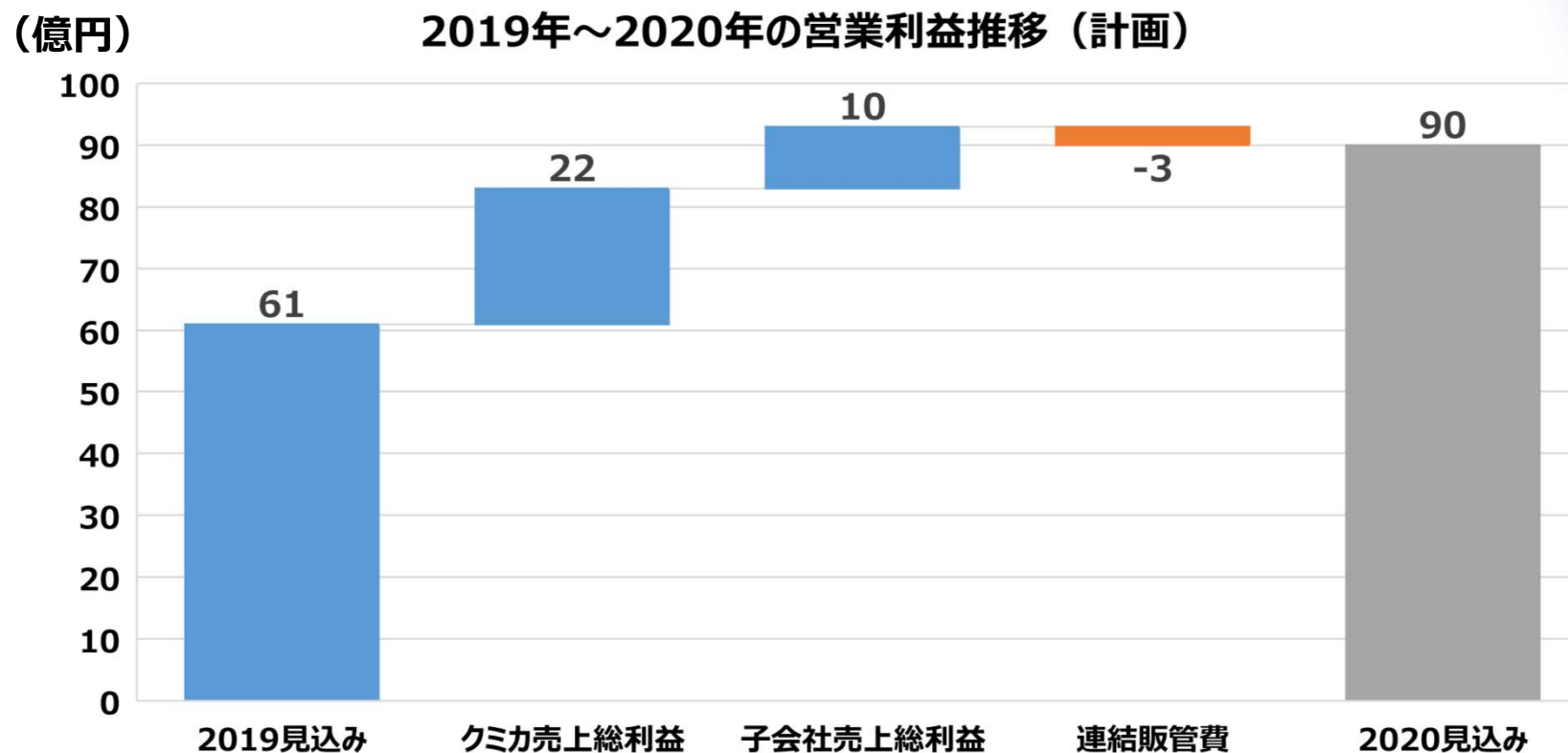
✓クミアイ化学単体で68億円増、子会社で22億円増の見込み

✓イハラニッケイケミカルタイランド、PIクミアイプライベートリミテッドが本格的に寄与

# 中期経営計画～長期ビジョンに向けて

## 中期経営計画達成に向けた計画

営業利益 61億円→90億円

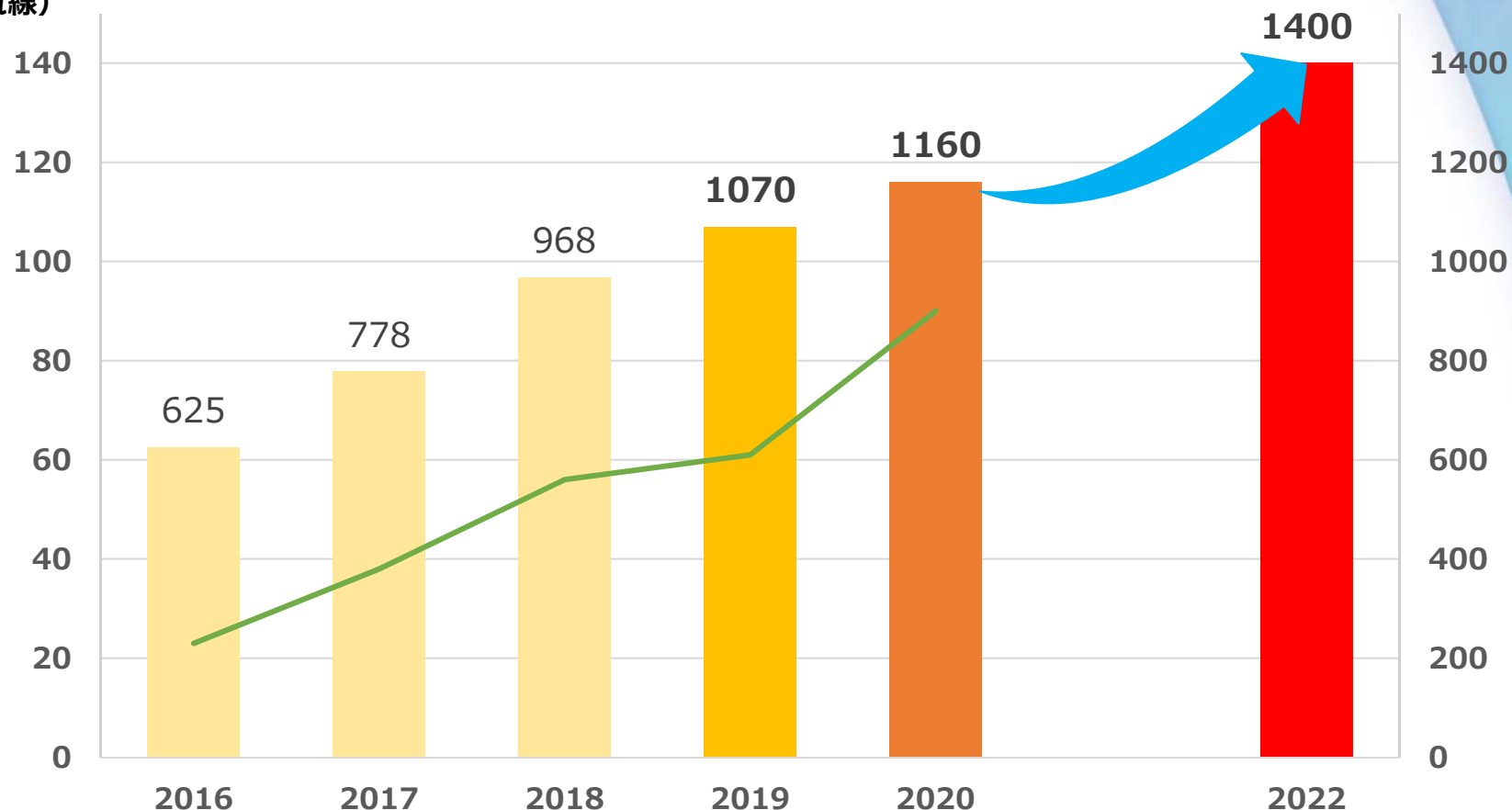


- ✓ 売上総利益はクミアイ化学単体で22億円増、子会社で10億円増の見込み
- ✓ アクシーブ（原体販売）売上増の寄与が大きく、販管費の増加は少ない

# 中期経営計画～長期ビジョンに向けて

営業利益(億円)  
(折れ線)

売上高(億円)



- ✓ 農薬及び農業関連事業：堅実な国内販売、海外市場のさらなる成長
- ✓ 化成品事業：強みを最大限に活用した高成長事業の強化・推進
- ✓ 長期ビジョンに向けた非連続的施策（M&A、剤の買収等）



# 理研グリーンの完全子会社化について



## 2019年6月7日に理研グリーンの完全子会社化に関する株式交換契約を締結

### 完全子会社化の狙い

- 親子上場の解消により連結グループ体制を強化
- ✓ 連結グループにおける経営の自由度・実効性の向上
- ✓ グループガバナンス・子会社コンプライアンスの深耕
- ✓ グループ全体の企業価値向上
- ✓ 中長期視野に立った成長戦略の実行

### 今後のスケジュール

- 2019年6月7日 株式交換契約締結
- 8月上旬 理研グリーン臨時株主総会（予定）
- 8月29日 理研グリーン上場廃止日（予定）
- 8月31日 株式交換の効力発生日（予定）

### 経営統合後の整備スキーム

#### イハラケミカルとの経営統合 2017.5

Kumika International Inc.を  
K-I Chemical U.S.A Inc.に統合  
(2017.10)

ケイ・アイ研究所を合併(2017.11)

K-I Chemical U.S.A.を  
ノースカロライナに移転(2018.11)

上海法人の名称変更(2018.11)  
(庵原化学貿易→組合化学貿易)

理研グリーン完全子会社化  
(2019.8予定)

- ✓ 今後も連結グループ体制の最適化を継続
- ✓ 連結グループとして企業価値最大化に向けた取り組みを加速

ご清聴ありがとうございました。



自然に学び 自然を守る



クミカ

**本資料に記載されている業績予想および将来の予想などに関する記述は、資料作成時点で入手された情報に基づき、弊社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なる可能性があります。**

**万が一、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いませんこと、ご承知おきください。**

**弊社および弊社関連会社以外に関する情報は、公知の情報に依拠しており、情報の正確性などについて保証するものではありません。**

<お問い合わせ先>

クミアイ化学工業株式会社

経営管理本部 総務人事部 広報・IR課

TEL: 03-3822-5036

FAX: 03-3823-6830

弊社IRサイトもご覧ください <http://ir.kumiai-chem.co.jp/>